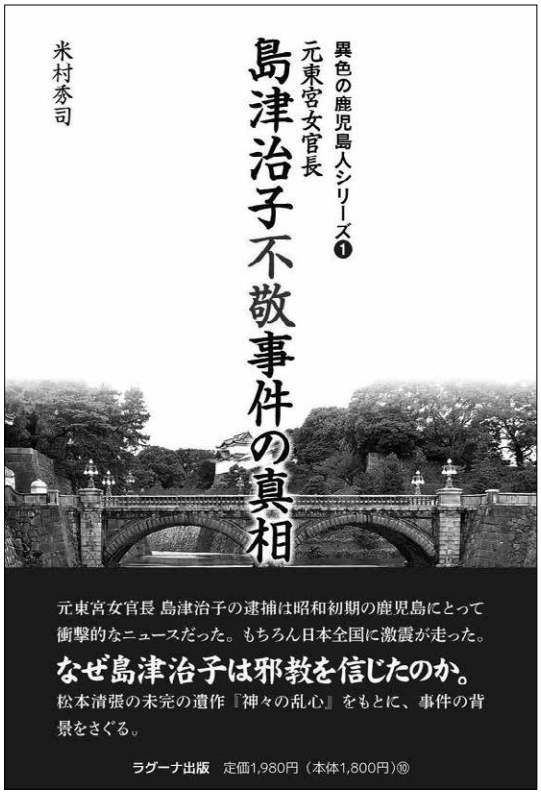
本の紹介

米村秀司『元東宮女官長　島津治子不敬事件の真相』ラグーナ出版（2021）

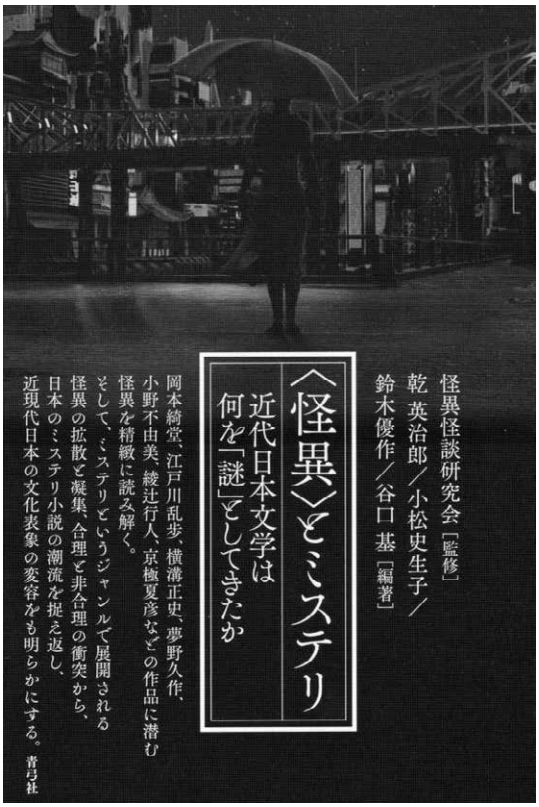
郷土史家である米村秀司による同書は，昭和11年に島津久光の孫であり，元東宮女官長であった治子が不敬罪で逮捕された顛末について探究が進められている。著者は牧野伸顕（大久保利通の子）ら同時代人の日記や新聞報道を丁寧に整理し，昭和初期の政財界・軍閥における薩派の弱体，妻であり母であった女性としての治子，そして政治と宗教の結びつき，などからこれに迫っている。不敬事件後治子の名前が登場するのは昭和45年の治子の死亡記事であった。この間の空白について，著者は「封印・沈黙・忘却の事件処理」がおこなわれたと考察する。

今日，政治と宗教をめぐる社会問題が顕在化している。本書で取り扱われた近代の社会問題の現れと帰結は，現代における類似する社会問題の過程へと知見を与えうると考える。

（日髙優介・社会学）



怪異怪談研究会監修／乾英治郎・小松史生子・鈴木優作・谷口基編『〈怪異〉とミステリ』青弓社（2022）

謎の合理的解明を主眼としたミステリ・ジャンルは、非合理な存在である怪異・怪談・怪奇幻想・ホラーといかに向き合ってきたのか。岡本綺堂、江戸川乱歩、横溝正史、夢野久作、戸川昌子、小野不由美、綾辻行人、京極夏彦などミステリの代表的な作家の作品はもちろん、四代目鶴屋南北や芥川龍之介、「故人サイト」やゲーム「逆転裁判」シリーズなどをも分析する。

（鈴木優作・日本近現代文学）